

Academic Listening & Speaking	秋	週2回	2単位
担当者: E. D. オズバーン			
講義の目標及び概要 1. Content - This course is designed to provide students with opportunities to learn the vocabulary and the Intermediate level English listening and speaking skills that will serve as the foundation for further preparatory work as they get ready to study abroad in a university environment. The course content focuses on themes related to life in society, with particular interest in the comparison of American and Japanese culture. 2. Role in the Curriculum - This is an elective course that is part of the European-American Culture Department's "English Training Sequence" (英語強化コース). 3. Learning Objective - The primary objective is help students reach the Intermediate to Intermediate High level of academic English listening and speaking in preparation for tests like the TOEFL and for studying overseas.			
評価方法 Grades will be based upon class attendance (10%), participation in discussions (20%), in-class presentations (40%), and two exams (15% each = 30%).			
教科書 授業の中で指示する Kim Sanabria 『Academic Listening Encounters: Life in Society』 Cambridge University Press			

Civilization & Environment	春	週1回	2単位
担当者: 村上 公久			
講義の目標及び概要 Culture is spiritual abstraction or blueprint of civilization. And civilization is concrete substance of culture. No civilization was established with small population which could survive within consumption of excessive production of ecosystem. People survived within the carrying capacity of nature until civilization built. Civilization has emerged as the population growth support system. In this course, we comprehend civilization as man-institution system. And man-institution system may be carried out under the restraints of man-environment system. It is worth to study on cultivation and agriculture as population growth support instrument and to study city as over population accumulation instrument. Environmental issues of the world today could be well understood in these two instruments study. Expansion limit determination of man-institution system and control of it through study of man-environment system will provide suitable strategy for Sustainable Development.			
評価方法 Graded mainly by class contribution through discussion, and then by reading assignments, performance, term papers (critical article response paper), and an end-of semester final closed-book exam. No midterm exam.			
教科書 プリントを配布する			

College Reading Skills	春	週2回	2単位
担当者: M. サベット			
講義の目標及び概要 The goal of this course is for students to: *Develop strategies to improve reading speech, and the ability to understand complex academic texts *Encourage students to adopt various approaches for dealing with new or unknown vocabulary *Explore and evaluate research techniques and resources, and credit sources of information *Promote learner independence			
評価方法 1. Class participation 30% 2. Homework 20% 3. Mid-term exam 25% 4. Final exam 25%			
教科書 S. Philpot & L. Curnick 『Academic Skills Level 3』 Oxford University Press			

College Writing Skills	秋	週2回	2単位
担当者: K. O. アンダスン			
講義の目標及び概要 1. 内容: この授業では英語論文を書くために必要な技能を修得する。段落の組み立て方、文章のまとめ方、時間的順位、原因と結果、比較と対象などを論文中にどのように用いまとめ、立証的な論文を作成するかを学ぶ。また他人の文章、考えの盗用の危険性を強調し、MLA Handbook for Writers of Research Paper, Sixth Edition を用い研究方法、出典文献の用い方なども身につける。 2. カリキュラム上の位置づけ: 海外で学ぶこと、英語論文を書くことを計画している学生対象。注) TOEFL換算スコア380点以上の学生対象 3. 学びの意義と目標: 自身の考えをまとめ調査・研究し論理的な論文の書き方を学び、将来に役立てる。			
評価方法 出席 10% 小テスト結果 30% 宿題 (レポート) 提出結果 30% 期末試験結果 30%			
教科書 Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』 Pearson/Longman 2006			

ECA (Business) A	春	週1回	1単位
担当者：チェンバレン 暁子			
講義の目標及び概要 1. 国際社会のグローバル化に伴い、ビジネスにおいても英語はコミュニケーションの手段としてその必要性は一層高まってきている。本授業においては、基礎的かつ実践的なビジネスを学んでゆく。 2. 基本的な英文法を習得していることと、PCの基本操作が出来る事が望ましい。 3. ビジネス英語会話や電話でのやり取り、ビジネス・メール&レターの読み書きなど実践的なビジネス英語を学んでいく。学期末には、自分の働いてみたい会社についてのリサーチを行い、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを授業内に行う。			
評価方法 小テスト&テスト 50%、プレゼンテーション 20% 出席 20%、 授業参加度 10%			
教科書 授業の中で指示する Kazushige Tsuji/Setsu Tsuji/Margaret L. Lieb 『Let's get down to business』 MACMILLAN LANGUAGE HOUSE			

ECA (Business) B	秋	週1回	1単位
担当者：チェンバレン 暁子			
講義の目標及び概要 1. 国際社会のグローバル化に伴い、ビジネスにおいても英語はコミュニケーションの手段としてその必要性は一層高まってきている。本授業においては、基礎的かつ実践的なビジネスを学んでゆく。 2. 基本的な英文法を習得していることと、PCの基本操作が出来る事が望ましい。 3. ビジネス英語会話や電話でのやり取り、ビジネス・メール&レターの読み書きなど実践的なビジネス英語を学んでいく。学期末には、自分の関心のある商品についてのリサーチを行い、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを授業内に行う。			
評価方法 Review tests & Quizzes 50%, Presentation 20% Attendance 30%, Class participation 10%			
教科書 授業の中で指示する			

ECA (Cinema) I [Super A]	春	週1回	1単位
担当者：長崎 睦子			
講義の目標及び概要 1. 内容 本科目は基本的に英語のみで行われる。映画を題材にその内容や背景にある文化・社会について学ぶという内容中心の授業の中で、英語力をつけることを目指す。日常生活で使われる様々な表現に触れ、会話練習やロール・プレイを通して使用することで、聞く力と話す力を伸ばす。また課題のテーマについて調べ、レポートを書き、英語でプレゼンテーションを行う。授業内外で自分のペースで自由に取り組めるe-learningも行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目である。 3. 学びの意義と目標 (1)映画を通して日常生活で使われている英語にたくさん触れることにより、リスニング力を高める。(2)会話練習、ロールプレイ、ディスカッションを通して、コミュニケーション能力を養う。(3)映画の背景にある英語圏の文化についての知識や理解を深める。(4)プレゼンテーションのテーマについてリサーチし、英語で原稿を書き、口頭発表を行う。(5)e-learningを通して授業以外にも多量の英語に触れ、英語力を高めると同時に学習習慣を身につける。			
評価方法 平常点(出席と授業への貢献度)(20%)、課題(プレゼンテーション)(30%)、学期末テスト(30%)、e-learning(20%)*評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業にて説明するので確認すること。			
教科書 『スクール・オブ・ロック』スクリーンプレイ			

ECA (Cinema) I	春	秋	週1回	1単位
担当者：遠藤 由佳里/島田 洋子/鈴木 政浩/チェンバレン 暁子/中川 英幸/能町 和子/メイス みよ子/吉幸田 聡美				
講義の目標及び概要 1. 授業の概要 欧米の映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、文化背景についても話し合う。ロールプレイを通し発音練習も行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目または選択科目となる。 3. 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。				
評価方法 平常点(含 小テスト、レポート、発表、出席、授業参加)50%、学期末試験50%				
教科書 『School of Rock』スクリーンプレイ				

ECA (Cinema) II 【Super A】	秋	週1回	1単位
担当者：島田 洋子			
講義の目標及び概要 1. 内容 本科目は基本的に英語のみで行われる。映画を題材にその内容や背景にある文化・社会について学ぶという内容中心の授業の中で、英語力をつけることを目指す。日常生活で使われる様々な表現に触れ、会話練習やロール・プレイを通して使用することで、聞く力と話す力を伸ばす。また課題のテーマについて調べ、レポートを書き、英語でプレゼンテーションを行う。授業内外で自分のペースで自由に取り組めるe-learningも行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目である。 3. 学びの意義と目標 (1)映画を通して日常生活で使われている英語にたくさん触れることにより、リスニング力を高める。(2)会話練習、ロールプレイ、ディスカッションを通して、コミュニケーション能力を養う。(3)映画の背景にある英語圏の文化についての知識や理解を深める。(4)プレゼンテーションのテーマについてリサーチし、英語で原稿を書き、口頭発表を行う。(5)e-learningを通して授業以外でも多量の英語に触れ、英語力を高めると同時に学習習慣を身につける。			
評価方法 平常点 (出席と授業への貢献度) (10%), 課題 (プレゼンテーション) (20%), e-learning (20%), 学期末テスト (30%), e-learning (20%) *評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業にて説明するので確認すること。			
教科書 『About A Boy』スクリーンプレイ			

ECA (Cinema) II	春	秋	週1回	1単位
担当者：島田 洋子/中川 英幸/長崎 睦子/能町 和子/吉牟田 聡美				
講義の目標及び概要 1. 授業の概要 欧米の映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、文化背景についても話し合う。LL機能を用い発音練習も行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 学科により英語必修科目、または英語選択科目である。 3. 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。				
評価方法 平常点 (含 小テスト、レポート、発表、出席、授業参加) 50%, 学期末試験 50%				
教科書 椎原寛基・W. Nixon 『About A Boy』スクリーンプレイ				

ECA (Cinema) III	春	秋	週1回	1単位
担当者：メイス みよ子				
講義の目標及び概要 1. 内容 この授業では数本の映画を通して、英語圏の文化や社会情勢などについて学ぶ。また、映画からだけではなく、インターネットを利用して映画のテーマに関するリサーチを行い、自分の意見を組み立てる。そして、ディスカッションを通してクラスメートとお互いの感想や意見を交換したり、プレゼンテーション、レポートを通して、自分の考えを発表したりする。さらに、映画のシーンを題材にしたリスニング練習や映画についての読解練習も取り入れる。 2. カリキュラムの位置づけ 選択科目であるが受講条件としてECA (Cinema) II が前提科目となっている。 3. 学びの意義と目標 映画を通して異文化に対する理解を深める。またリサーチした内容をまとめ、自分の考えをしっかりとまとめ発表できることを目標とする。				
評価方法 平常点 50点 (出席状況、宿題、テスト、授業の作業、参加態度) 課題点 50点 (レポート)				
教科書 授業の中で指示する				

ECA (Communication) A	春	週2回	2単位
担当者：K. ヤブノ			
講義の目標及び概要 The goal of this course is to build on communication skills learned during the first year and improve students' confidence and motivation in interacting with others. Listening and speaking skills are emphasized while there is some focus on reading and grammar.			
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 25% 2. 宿題 25% 3. スピーキングテスト (2回) 25% 4. 期末試験 25%			
教科書 J. C. Richards & D. Bohlke 『Four Corners 2』 Cambridge University Press			

ECA (Communication) B		秋	週2回	2単位
担当者：K. ヤブノ				
講義の目標及び概要 The goal of this course is to build on communication skills learned during the first year and improve students' confidence and motivation in interacting with others. Listening and speaking skills are emphasized while there is some focus on reading and grammar.				
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 25% 2. 宿題 25% 3. スピーキングテスト（2回）25% 4. 期末試験 25%				
教科書 J. C. Richards & D. Bohlke 『Four Corners 2』 Cambridge University Press				

ECA (Culture) A		春	週1回	1単位
担当者：川田 牧人/能町 和子				
講義の目標及び概要 1、内容 アメリカの文化、歴史、風土などを紹介するテキストを読む。リーディング中心ですが、テキストの内容に関連した事柄を考え、英語で意見を交換したり、クラス内で発表したり、in-putからout-putへつなげてく授業にしていきます。 2、カリキュラムの位置づけ テキストの英語は平易なもののですが、基礎にとどまらず応用力をつけるものとなります。 3、学びの意義と目標 英語という言葉が使われている国、文化に関する記述を読みつつ、基本文法の確認をしていきます。文化に興味のある者にとっては、知識を増やし深めるなかで語彙力の強化につながると思います。また、英語という枠にとらわれず、自分の意見や思いを発表することができるようにしていければと考えます。				
評価方法 出席 15%、発表 20%、提出物15%、中間20%、期末30%				
教科書 Broukal, Milada and Murphy, Peter 『All About the USA 3: A Cultural reader, Third Edition』 Pearson Education, Inc.				

ECA (Culture) B		秋	週1回	1単位
担当者：チェンバレン 暁子				
講義の目標及び概要 1. アメリカ文化を知る上で欠かせないトピックスを扱ったテキスト使用し、読解力の養成を主眼とした授業である。 2. 英語基本文法を習得していることが望ましい。 3. テキストの講読だけでなく、インターネットでのリサーチなども行い、トピックについて理解を深める。 随時、映像教材などを用いて、リスニング力の養成も行う。学期後半に、各自興味を持ったトピックをレポートにし、授業の中でプレゼンテーションを行う。				
評価方法 小テスト & テスト 50%, Presentation 20% 出席 30%, 授業態度 10%				
教科書 Milada Broukal 『All About The USA 3 Third Edition』 Pearson Longman				

ECA (English Through Songs) A		春	週1回	1単位
担当者：チェンバレン 暁子				
講義の目標及び概要 1. 英語のロックやポップスを通して、英語の強弱ストレス、リズム、イントネーションや様々な音声変化に親しみ、楽しみながら英語の音声特徴を身につけ英語リスニングや発音の養成を目指す。 2. 英語の歌を通して、英語のリスニングなどを学ぶ入門的授業であるが、英語の基本文法を習得した学生が選択するのが望ましい。 3. 授業では、歌のリスニングだけでなく、歌のメッセージや歌詞のスタイルにも着目する。また、アーティストの経歴についても学んでゆく。学期の後半には、各自の好きなアーティストの曲についてレポートにまとめ、授業内でプレゼンテーションを行う。				
評価方法 小テスト & テスト 40%, report & presentation 30% Attendance & Class Participation 30%				
教科書 Nobuhiro Kumai & Stephen Timson 『Top of The Pops Listening』 MACMILLAN LANGUAGE HOUSE				

ECA (English Through Songs) A		春	週1回	1単位
担当者：L. アーノルド				
講義の目標及び概要 この科目は、現代ポップスを使用してリスニングとスピーキングのスキルを高めることに焦点を当てる。主な目的は、いろいろな雰囲気の中で英語の歌を紹介しながら英語上達に必要なスキルを補強していくことである。歌詞やさまざまなジャンルの音楽についての会話や興味ある音楽の短いプレゼンテーションを多くこなすことによって、スピーキング能力を向上させる。リスニングは歌詞の要点、単語の聞き取り、略式の発音を中心に行う。ミュージシャンとポピュラー音楽の歴史、歌詞の訳などの課題が出される。学期末までには、人前で英語を話すことに自信を持ち、現代ポップスとミュージシャンに対する関心が高まり、現代西洋音楽の歴史を理解することができる。				
評価方法 1. 出席・参加 50% 2. プレゼンテーション 25% 3. 期末テスト(リスニング) 25%				
教科書 プリントを配布する 熊井信弘・Stephen Timson『ヒット・パレード・リスニング』マクミラン ランゲージハウス				

ECA (English Through Songs) B		秋	週1回	1単位
担当者：K. ヒル				
講義の目標及び概要 履修条件 (ECA (Speaking I, II) 履修済み TOEFL 300点以上 1. 内容 現代ポップスを使用してリスニングとスピーキングのスキルを高めることに焦点を当てる。歌詞やさまざまなジャンルの音楽についてのディスカッションを多くこなすことによって、スピーキング能力を向上させる。リスニングは歌詞の要点、単語の聞き取り、略式の発音を中心に行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目 3. 学びの意義と目標 楽しくリラックスした雰囲気の中で英語の歌を紹介しながら英語上達に必要なスキルを補強していくことである。				
評価方法 1. Attendance and participation 20% 2. Assignment 20% 3. Discussion 30% 4. Final Test 30%				
教科書 English Through Songs 『Kent Hill』 Eigo Press				

ECA (English Through Songs) B		秋	週1回	1単位
担当者：チェンバレン 暁子				
講義の目標及び概要 1. 英語のロックやポップスを通して、英語の強弱ストレス、リズム、イントネーションや様々な音声変化に親しみ、楽しみながら英語の音声特徴を身につけ英語リスニングや発音の養成を目指す。 2. 英語の基礎を習得した学生が選択するのが望ましい中級レベルの授業である。 3. 授業では、歌のリスニングだけでなく、歌のメッセージや歌詞のスタイルにも着目する。また、アーティストの経歴についても学んでゆく。学期のの後半には、各自の好きなアーティストの曲についてレポートにまとめ、授業内でプレゼンテーションを行う。				
評価方法 小テスト&テスト50%、レポート&プレゼンテーション20% 出席&参加度 30%				
教科書 Nobuhiro Kumai & Stephen Timson 『Hit Parade Listening』 MAC-MILLAN LANGUAGE HOUSE				

ECA (Pleasure Reading) A		春	週1回	1単位
担当者：吉牟田 聡美				
講義の目標及び概要 〈内容〉 自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）していく授業である。学生は、Graded Readersというレベル別に分かれたさまざまなジャンルの本の中から、各自の興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で学期を通してできるだけ多くの本を読み進めていく。その間、読んだ本の記録をつけ、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をアクティビティを通じて行なう。読んだ本について英語でプレゼンテーションをする。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 基礎科目群の英語選択科目である。 〈学びの意義と目標〉 英語で読む習慣を身につけ、沢山読むことで自然に英語力を伸ばし、自分の好きな本を自分のペースで読み進めることで英語で読むことの楽しさ (pleasure of reading)を知る。				
評価方法 出席とアクティビティへの参加、リーディングジャーナル、読書量、課題や発表から総合的に評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

ECA(Pleasure Reading) B	秋 週1回 1単位
担当者：吉牟田 聡美	
講義の目標及び概要 (内容) 自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）していく授業である。学生は、Graded Readersというレベル別に分かれたさまざまなジャンルの本の中から、各自の興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で学期を通してできるだけ多くの本を読み進めていく。その間、読んだ本の記録をつけ、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をアクティビティを通じて行なう。読んだ本について英語でプレゼンテーションをする。 (カリキュラム上の位置づけ) 基礎科目群の英語選択科目である。 (学びの意義と目標) 英語で読む習慣を身につけ、沢山読むことで自然に英語力を伸ばし、自分の好きな本を自分のペースで読み進めることで英語で読むことの楽しさ (pleasure of reading)を知る。	
評価方法 出席とアクティビティへの参加、リーディングジャーナル、読書量、課題や発表から総合的に評価する。	
教科書 授業の中で指示する	

ECA(Presentation English)	春 週2回 2単位
担当者：K. O. アンダスン	
講義の目標及び概要 1. 内容:プレゼンテーションとは、「個人またはグループが特定のテーマを紹介・説明するためにする短い話」と定義されている。学生はこのプレゼンテーションの方式を学び、発表の際には補助教材、特に、パワーポイントを使用することを学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ:この科目はECA(Speaking)やECA(Communication)に続いて、ECAの最も上級のオーラルトラックの科目である。 3. 学びの目標:この科目は、学生主体であり、英語のプレゼンテーションに必要なスキルを向上させることを通して、英語の流暢さも向上させることを目的とする。いろいろなプレゼンテーションの技法を学習する機会を通し、会話やリスニングの能力を上達させることを目的としている。プレゼンテーション技法に触れることにより、オーラルと聞き取りのスキルを上達させることに焦点を当てる。また、それと同時に人の前で話す自信を得ることも目的としている。	
評価方法 10% 授業への出席 30% 宿題内容、提出 30% プレゼンテーション演習 30% 小テスト	
教科書 Marion Grussendorf 『English for Presentations』 Oxford University Press	

ECA(Reading) I	春 秋 週1回 1単位
担当者：遠藤 由佳里/島田 洋子/鈴木 政治/中川 英幸/メイス みよ子/吉牟田 聡美	
講義の目標及び概要 1:授業の概要 様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。 2:カリキュラムの位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目または英語選択科目である。 3:学びの意義と目標 大学生としての基礎英語読解力を養成する。	
評価方法 平常点 (含 小テスト、レポート、発表、出席、授業参加)50%, 学期末試験50%	
教科書 授業の中で指示する	

ECA(Reading) I [ALL:Level A]	春 秋 週1回 1単位
担当者：遠藤 由佳里/島田 洋子/鈴木 政治/森 容子	
講義の目標及び概要 1. 授業の概要:様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。また学習したトピックに関する自分の意見を簡単な英語で表現する。 2. カリキュラムの位置づけ:学科により基礎科目群の英語必修科目または英語選択科目である。 3. 学びの意義と目標:大学生としての基礎英語読解力を養成する。	
評価方法 平常点(小テスト、レポート、発表、出席、態度)50%、学期末試験50%	
教科書 S. Heyer 『More True Stories』 Pearson Education	

ECA(Reading) I [ALL:Level B] 春 秋 週1回 1単位
担当者: 吉牟田 聡美/能町 和子
講義の目標及び概要 1:授業の概要 様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。 2:カリキュラムの位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目または英語選択科目である。 3:学びの意義と目標 大学生としての基礎英語読解力を養成する。
評価方法 平常点(含む小テスト、レポート、発表、出席、態度) 50%、学期末試験50%
教科書 S. Iannuzzi & R. Weiss 『Read All About It, Starter』 Oxford

ECA(Reading) I [Super A] 春 週1回 1単位
担当者: メイス みよ子
講義の目標及び概要 This course is designed to improve your overall English skills. By reading interesting stories that made the news and discussing them, you will build up your reading comprehension, vocabulary and grammar skills. In this course you will also engage in extensive reading. There are a variety of readers in GP reading lab (1103) for you to check out and read at your own pace. You can also practice your English using a variety of resources on the Internet.
評価方法 Online Reading and book report (20%) e-learning (20%) Class handouts and Homework (20%) Quizzes (10%) Final Exam (30%)
教科書 Sandra Heyer 『Even More True Stories』 ピアソン・ロングマン

ECA(Reading) II 春 秋 週1回 1単位
担当者: 遠藤 由佳里/島田 洋子/中川 英幸/メイス みよ子
講義の目標及び概要 1. 授業の概要 様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。 2. カリキュラムの位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目又は英語選択科目となる。 3. 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語読解力を養成する。
評価方法 平常点50% (小テスト、フックレポート、宿題、出席態度)、 学期末テスト50%
教科書 授業の中で指示する

ECA(Reading) II [ALL:Level A] 春 秋 週1回 1単位
担当者: メイス みよ子/森 容子
講義の目標及び概要 1. 授業の概要: 様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。また学習したトピックに関する自分の意見を簡単な英語で表現する。 2. カリキュラムの位置づけ: 学科により基礎科目群の英語必修科目または英語選択科目である。 3. 学びの意義と目標: 大学生としての基礎英語読解力を養成する。 3. 学びの意義と目標: 大学生としての基礎英語読解力を養成する。
評価方法 平常点 (小テスト、レポート、出席、授業参加) 50%、学期末試験 50%
教科書 S. Heyer 『More True Stories』 Pearson Education

ECA(Reading) II [ALL・Level B] 春 秋 週1回 1単位	
担当者：島田 洋子/吉牟田 聡美	
講義の目標及び概要 1:授業の概要 様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。 2:カリキュラムの位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目または英語選択科目である。 3:学びの意義と目標 大学生としての基礎英語読解力を養成する。	
評価方法 平常点（含む小テスト、レポート、発表、出席、態度）50%、学期末試験50%	
教科書 S. Iannuzzi & R. Weiss 『Read All About It, Starter』 Oxford	

ECA(Reading) II [Super A] 秋 週1回 1単位	
担当者：メイス みよ子	
講義の目標及び概要 This course is designed to improve your overall English skills. By reading interesting stories that made the news and discussing them, you will build up your reading comprehension, vocabulary and grammar skills. In this course you will also engage in extensive reading. There are a variety of readers in GP reading lab (1103) for you to check out and read at your own pace. You can also practice your English using a variety of resources on the Internet.	
評価方法 Book report/ online reading 20 % e-learning 20% Homework/ quizzes 20% quizzes 10% Final Exam 30%	
教科書 Sandra Heyer 『Even More True Stories』 ピアソン・ロングマン	

ECA(Speaking) I [All] 春 秋 週2回 2単位	
担当者：K. ヤブノ/K. ヒル	
講義の目標及び概要 1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目 3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。	
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 25% 2. 宿題 25% 3. スピーキングテスト（2回）25% 4. 期末試験 25%	
教科書 Saslow & Ascher 『Top Notch Fundamentals Second Edition』 Pearson Longman	

ECA(Speaking) I [Level A] 春 秋 週2回 2単位	
担当者：M. サベット/L. アーノルド/K. ヤブノ	
講義の目標及び概要 1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目 3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。	
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 30% 2. 語彙の宿題・小テスト 20% 3. スピーキングテスト（2回）30% 4. 期末試験 20%	
教科書 Saslow & Ascher 『Top Notch series New Edition』 Longman Pearson	

ECA(Speaking) I [Level B]		春	秋	週2回	2単位
担当者: K. ヒル/K. ヤブノ					
講義の目標及び概要 1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目 3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。					
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 25% 2. 宿題 25% 3. スピーキングテスト（2回）25% 4. 期末試験 25%					
教科書 Saslow & Ascher 『Top Notch 1 Second Edition』 Pearson Longman					

ECA(Speaking) I [Level C/D]		春	秋	週2回	2単位
担当者: チェンバレン 暁子/K. ヒル					
講義の目標及び概要 1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目 3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。					
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 25% 2. 宿題 25% 3. スピーキングテスト（2回）25% 4. 期末試験 25%					
教科書 Saslow & Ascher 『Top Notch Fundamentals Second Edition』 Pearson Longman					

ECA(Speaking) I [Super A]		春	週2回	2単位
担当者: J. T. 清水				
講義の目標及び概要 1. 内容 この科目では受講生の考えや意見を効果的に英語で伝える能力を高める学習を行う。語学の授業に置いては出席が重要であるため、この科目では最低80%の出席が必要条件である。外国語能力上達のためには100%の出席でも十分ではないため、自習は積極的に行うことを望む。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目はSLEPプレースメントテストのTOEFL換算スコア400点以上を取得した1年生を対象としている。この基準を満たす1年生はECA(Speaking) Iの代わりにこの授業を履修する。 3. 学びの意義と目標 この科目は高校の英語授業で学んだ英語コミュニケーションスキルをもとに進める。国際コミュニケーションのための英語の話し方、聞き取り、書き方スキルを上達させることを強調する。学生が自信をもって、色々なコミュニケーション状況で参加できるようになることを目指す。				
評価方法 出席 30%、宿題 20%、口頭試験 20%、期末試験 30%				
教科書 Saslow and Ascher 『Summit 1』 Pearson Longman				

ECA(Speaking) II [All]		春	秋	週2回	2単位
担当者: K. ヤブノ/K. ヒル					
講義の目標及び概要 1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目 3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。					
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 25% 2. 宿題 25% 3. スピーキングテスト（2回）25% 4. 期末試験 25%					
教科書 Saslow & Ascher 『Top Notch Fundamentals Second Edition』 Pearson Longman					

ECA (Speaking) II [Level A]	秋	週2回	2単位
担当者：J. T. 清水			
講義の目標及び概要 1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目 3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。			
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 25% 2. 宿題 25% 3. スピーキングテスト（2回）25% 4. 期末試験 25%			
教科書 Saslow, Ascher 『Top Notch 2 Second Edition』 Pearson Longman			

ECA (Speaking) II [Level B]	秋	週2回	2単位
担当者：K. ヒル			
講義の目標及び概要 1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目 3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。			
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 25% 2. 宿題 25% 3. スピーキングテスト（2回）25% 4. 期末試験 25%			
教科書 Saslow & Ascher 『Top Notch 1 Second Edition』 Pearson Longman			

ECA (Speaking) II [Level C]	秋	週2回	2単位
担当者：チェンバレン 暁子			
講義の目標及び概要 1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目 3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。			
評価方法 1. 出席状況、授業態度・参加 25% 2. 宿題 25% 3. スピーキングテスト（2回）25% 4. 期末試験 25%			
教科書 Saslow & Ascher 『Top Notch Fundamentals Second Edition』 Pearson Longman			

ECA (Speaking) II [Super A]	秋	週2回	2単位
担当者：M. サベット			
講義の目標及び概要 1. 内容 ECA (Super A) I の授業で学んだ英語コミュニケーションスキルをもとに進めるつもりである。国際コミュニケーションのための英語の話しかた、聞き取り、書き方スキルを上達させることを強調する。小グループ、クラス全体で行うタスクベースや問題を解決する学習方法で進める。本来外国語能力上達のためには出席が100%でも十分とはいえず、自習をすることは必要条件である。宿題や聖学院大学のECAホームページを通しての追加練習を必ず行うこと。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目はECA (Super A) Iの単位を取得した1年生を対象としている。 3. 学びの意義と目標 American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL) ガイドラインによる口頭英語能力レベルが（中級の中）レベルまで上達することがこの科目の総合的な目標である。このレベルでは学生が自信を持って、色々なコミュニケーション状況で参加できるようになる。口頭テストは合計2回、筆記期末試験は行う。			
評価方法 出席 30%、宿題 20%、口頭試験 20%、期末試験 30%			
教科書 Saslow and Ascher 『Summit 1』 Pearson Longman			

ECA(Survival English)	春	秋	週2回	2単位
担当者：チェンパレン 暁子/K. ヒル/J. T. 清水/L. アーノルド				
講義の目標及び概要 1. 内容 簡単な英語、実践的な英語を理解したり伝えたりしなければならないさまざまなシチュエーションを体験する。また、コミュニケーションをよりなめらかにするために、特定の英語圏の国の文化と習慣について学ぶ。学期の終了時には、旅行先や滞在先の国の文化についての理解を深めていると同時に、メニューの見方や注文の仕方、病気や症状の用語や病院での説明の仕方、道の聞き方、値段の聞き方や買い物の仕方など、さまざまな状況でサバイバルすることができる語学力を得ているだろう。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目 3. 学びの意義と目標 英語圏への短期間の旅行や滞在に必要なスピーキングとリスニングのスキルを高めることを目的とする。				
評価方法 1. 出席状況、授業への参加 50% 2. 課題の成績、20% 3. テスト結果 30%				
教科書 Angela Buckingham and Norman Whitney 『Passport to New Places I & II』 Oxford University Press				

ECA(Test English) A	春	秋	週1回	1単位
担当者：島田 洋子/中川 英幸/メイス みよ子/吉牟田 聡美				
講義の目標及び概要 英語コミュニケーション能力試験の基礎固めとして、英文法を基礎から徹底的に復習する。また、日本人にとって特に苦手な文法項目を詳しく丁寧に解説し、数多くの練習問題を行うことで、基本的な使い方を身につけ、英語コミュニケーション能力の向上を計る。資格試験の形式に慣れるよう、TOEIC練習問題やリスニングの練習も授業の中で随時行う。				
評価方法 平常点(小テスト、宿題、授業参加を含む)50%、期末試験50%				
教科書 M. Swan & C. Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法パートA：動詞と時制』旺文社				

ECA(Test English) A [L学科用:Aクラス]	秋	週1回	1単位
担当者：メイス みよ子			
講義の目標及び概要 1. 内容：この授業では基礎文法の習得を中心に授業を進めて行く。英文法をしっかりとマスターできるよう、繰り返し文法演習を行う。英語資格テスト、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。基礎力だけでなく、応用力もつけられるよう指導して行く。 2. カリキュラムの位置づけ：基礎科目群の英語必修科目である。 3. 学びの意義と目標：資格英語で高得点をとれるよう、基礎文法力、読解力をしっかり身につける事を目標とする。			
評価方法 平常点(50点)(小テスト、宿題、授業参加を含む)試験(50点)			
教科書 竹前、菊池、秋山、W. オコナー 『Fundamental English for College Students: Rules of Syntax』南雲堂			

ECA(Test English) A [L学科用:B・Cクラス]	秋	週1回	1単位
担当者：中川 英幸/島田 洋子/メイス みよ子			
講義の目標及び概要 1. 内容：この授業では基礎文法の習得を中心に授業を進めて行く。英文法をしっかりとマスターできるよう、繰り返し文法演習を行う。英語資格テスト、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。基礎力だけでなく、応用力もつけられるよう指導して行く。 2. カリキュラムの位置づけ：基礎科目群の英語必修科目である。 3. 学びの意義と目標：資格英語で高得点をとれるよう、基礎文法力、読解力をしっかり身につける事を目標とする。			
評価方法 平常点(50点)(小テスト、宿題、授業参加を含む)試験(50点)			
教科書 S. Shibagaki, N. Hiraiwa, N. Kawaguchi, T. Sekiguchi, Y. Kurihara, M. Lidgley 『Grammar Boost』 Macmillan Languagehouse			

ECA (Test English) B		秋	週1回	1単位
担当者：島田 洋子/中川 英幸/メイス みよ子				
講義の目標及び概要 英語コミュニケーション能力試験の基礎固めとして、英文法を基礎から徹底的に復習する。また、日本人にとって特に苦手な文法項目を詳しく丁寧に解説し、数多くの練習問題を行うことで、基本的な使い方を身につけ、英語コミュニケーション能力の向上を計る。試験の形式に慣れるよう、TOEIC練習問題やリスニングの練習も授業の中で随時行う。				
評価方法 平常点(小テスト、宿題、授業参加を含む)50%、期末試験50%				
教科書 Michael Swan & Catherine Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートB:修飾と接続』旺文社				

EU法		春	週2回	4単位
担当者：倉西 雅子				
講義の目標及び概要 1. 内容 EUは、地域経済圏の構築を出発点としていますが、現在では、政治分野の政策領域にも携わるようになりました。このため、EU法には、多様な目的と領域があり、国際法的な要素と国内法的な要素が混在する、極めてユニークな法体系を構成しています。本講義では、EUと加盟国から成る多層的な法空間の全体像を、わかりやすく体系的に描き出してゆきます。				
2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学部のカリキュラムにあつて、EU法の講義は、法学系の専門科目として位置付けられています。				
3. 学びの意義 EU法を学ぶことは、法と国際機構の目的との関係を把握し、法の役割を理解することに役立ちます。また、EUと加盟国との“棲み分け構造”にも触れることができます。				
評価方法 単位の認定は、レポートの提出と出席日数(3分の2以上)を条件とし、成績は、レポート50%、出席日数50%で評価します。				
教科書 プリントを配布する				

FP入門講座		春	週1回	2単位
担当者：江波戸 順史				
講義の目標及び概要 1. 概要 テーマは「お金」である。私たちの生活の中でお金の果たす役割は大きい。しかし、お金について深く考えたことのある学生は少ないと思われる。バイトで稼いだお金を使うだろうが、お金の役割はそれだけではない。ファイナンシャル・プランナー (FP) は、お金の役割を正しく判断し、私たちにアドバイスをくれる。本講義では、FPが扱うお金に関して考えてみたい。				
2. カリキュラム上の位置づけ…FPに関する入門的な講義である。				
3. 目標…(1)お金に関する知識を高め、私たちの生活を向上させること。(2)お金を巡る今日的な問題に興味を持ち、それに關して受講生が自分の意見を表明すること。				
4. 学びの意義…今日のような不景気の中でお金の役割を考えることは意義がある。またお金に関して学ぶことで将来的な生活設計を考えるはずである。				
評価方法 定期試験、小テスト、出席日数により総合的に評価する。ただし、出席日数が80%を超えない学生は評価の対象外とする。				
教科書 授業の中で指示する				

Intercultural Communication between Japan & the U.S. A. A		春	週2回	4単位
担当者：E. D. オズバーン				
講義の目標及び概要 1. Content - This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries.				
2. Role in the Curriculum - The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate.				
3. Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.				
評価方法 Grades will be based upon attendance (15%), reading assignments (20%), a term paper (35%), and two examinations (15% each = 30%).				
教科書 Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th edition)』 SAGE Publications, Inc.				

ITパスポート講座		春	秋	週2回	4単位
担当者：竹井 潔					
講義の目標及び概要 〈内容〉 2009年度から情報処理技術者試験に新設された国家試験「ITパスポート試験」で求められる総合的な知識を幅広く学ぶ。試験の内容は、テクノロジー系(IT技術)・マネジメント系(IT管理)・ストラテジ系(経営全般)の3分野に分かれている。外部講師を招き、講義を行う。 〈位置づけ〉 基礎科目の中の選択科目であり、「情報リテラシー」を修得した学生が、さらに幅広い知識を身につけるための科目である。 〈学びの意義と目標〉 高度情報化された現代社会においては、これからの社会で働く全ての人に Information Technology を利用することが求められている。ITを十分に活用するためには、事務系・技術系いずれの職種でも、ITと経営全般に関する総合知識が必要になる。 「ITパスポート試験」に合格できる知識を学ぶことで、これからの職業人として必要なITスキルを身につけてもらいたい。					
評価方法 期末試験(60%)、課題提出(20%)、出席(20%)					
教科書 インフォテック・サーブ編『ここから始めるITパスポート』インフォテック・サーブ インフォテック・サーブ編『ITパスポート試験問題集』インフォテック・サーブ					

NPO・NGO論(国際協力)		秋	週2回	4単位
担当者：林 明仁				
講義の目標及び概要				
1. 内容 NGOとは個人が社会と関係を構築する一つの手段であるという視点から、NGOに関わる人びとが社会に対してどのような問題意識を持ち、どのような変化を求めているのかについて授業を行なう。その際に、特に日本という文脈の中でNGOが置かれている現状や課題、存在意義について議論や考察を深める。授業は、講義だけではなく、映像やグループディスカッション、ワークショップ、受講者のプレゼンテーションなども積極的に活用する。				
2. カリキュラム上の位置付け 専門科目であるが、概論・入門的な位置付けである。特に履修しておく必要のある科目はない。				
3. 学びの目標 ・NGOが活動の対象とする世界的な課題について理解することで、自らの関心領域を拡張する。 ・NGOと社会の関係を理解し、自らの周りにある社会的問題の発見を通して、NGO活動へ参加する機会を見出す。				
評価方法				
出席および毎回の授業で提出するコメントから判断する習熟度合(50%)、学期中のレポートおよび試験(50%)から評価を行なう。出席については、授業への積極的な参加を基本とする。				
教科書				
プリントを配布する				

NPO・NGO論(非営利組織)		春	週2回	4単位
担当者：大高 研道				
講義の目標及び概要				
1. 内容 福祉社会の到来にともない、地域で活動を展開する市民組織の役割が国際的に注目されている。わが国でも1995年の阪神・淡路大震災以降、NPOの役割が広く一般に認知され、1998年には、その支援を目的とした特定非営利活動促進法（NPO法）が制定された。本講義では、非営利活動をめぐる国際的動向やわが国のNPOの実態について検討するとともに、NPOが注目されるようになった現代的背景や構造的要因にも目をむけて、その現在と未来についてともに考えたい。				
2. カリキュラム上の位置づけ NPO入門的位置づけであると同時にコミュニティ政策学科の共通専門科目である。				
3. 学びの意義と目標 現代社会におけるNPOの全体像を把握することが主要な目的となる。福祉・教育・文化・環境・まちづくり等、社会的・経済的領域を網羅したNPO活動は20世紀末から21世紀にかけてもっとも成長した分野の一つと言われており、その動向を理解しておくことは、とりわけ地域社会を基盤とした労働や生活の未来を構想する上でも有益であろう。				
評価方法				
・試験80%+レポート20% ・出席点について…毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。				
教科書				
プリントを配布する				

Pop Culture		秋	週2回	4単位
担当者：畠山 宗明				
講義の目標及び概要				
<p>1. 内容:私たちは現在、グローバル化した大衆文化の時代に生きている。ポップミュージックやインターネット、パソコンなど、どこの国に行っても似たような文化を目にすることができるし、Facebookなどのツールを通じて、世界中の人と繋がることもできる。しかし、今日大衆文化と言われるものの多くはアメリカ合衆国で生まれている。本講義では、大衆文化をアメリカの歴史や国家的特徴と結びつけて理解することで、なぜ大衆文化が主にアメリカ発のものとなるのかを、広い歴史的パースペクティブのもので考察する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:ありふれた大衆文化がどのような文化的背景から生まれ、どのような文化的意義を持っているのかを学ぶことによって、他の領域で得た知識に厚みを持たせることができる。</p> <p>3. 学びの意義と目標:大衆文化の発生と伝播におけるアメリカ合衆国の役割を知り、それをもたらし合衆国の国家的な特徴を学ぶ。</p>				
評価方法				
中間テスト(20%)、期末テスト(レポートもしくは教場、60%)、ミニッツレポート(期間中5回程度実施、20%)。				
教科書				
プリントを配布する				

Speech & Debate A		春	週2回	4単位
担当者：M. サベット				
講義の目標及び概要 1. 内容 英語のスピーキング・スキルに重きを置く。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目群の選択科目 3. 学びの意義と目標： (1) (全般) 聴衆の前でのスピーキング・スキルを上達させる。 (2) (言語) 英語で自分の考えを表現できる能力を上達させる。 (3) (文化) 英語と日本語におけるスピーキングの違いの理解を深める。				
評価方法 20% 出席 Attendance 60% スピーチの実践 Practice Speeches 20% 最終スピーチ Final Speech				
教科書 プリントを配布する				

Speech & Debate B		秋	週2回	4単位
担当者：M. サベット				
講義の目標及び概要 Speech & Debate B will focus on debating skills in English. The goals of the course are: Speech and Debate Bは、英語のディベート・スキルに重きを置く。このコースの目標： 1. (general) to improve general debating skills; that is, effectively arguing for or against a proposition; 2. (language) to improve your ability to express your opinions in English; 3. (culture) to gain a better understanding of the importance of the exchange of ideas and opinions in a free society. 1. (全般) 効果的な議論および主張への反論をするためのディベート・スキルを上達させる。 2. (言語) 英語で自分の意見を主張できる能力を上達させる。 3. (文化) 自由社会において自分の考えおよび見解を意見交換することが、いかに重要であるかという理解を深める。				
評価方法 20% 出席 Attendance 60% ディベートの実践 Practice Debates 20% 最終ディベート Final Debate				
教科書 プリントを配布する				

TOEFL A		春	週2回	2単位
担当者：中村 香代子				
講義の目標及び概要 1. 内容 TOEFL Testの対策講座です。大変難易度の高いiBT Test受験に向け、ITP形式問題の練習から始めて徐々に力をつけて行きます。中でも分量の多いReading・Listeningセクションに重点を置き、正確に解答するための練習を重ねながら、iBTのWritingにも対応できる確かな文法力習得を目指します。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。 2. カリキュラム上の位置づけ 将来留学や海外大学編入を考えている人の為のクラスです。受講者にはTOEFL-ITPの受験が求められます。 3. 学びの意義と目標 最終目標として難易度の高いTOEFL iBTに対応できるスピードと内容理解力アップを目指します。また総合的な英語力向上も目指します。				
評価方法 出席(20%)、授業参加(20%)、単語クイズ(30%)、定期試験(30%)の結果を総合的に評価します。				
教科書 プリントを配布する				

TOEFL B		秋	週2回	2単位
担当者：中村 香代子				
講義の目標及び概要 1. 内容 TOEFL Testの対策講座です。大変難易度の高いiBT Test受験に向け、ITP形式問題の練習から始めて徐々に力をつけて行きます。中でも分量の多いReading・Listeningセクションに重点を置き、正確に解答するための練習を重ねながら、iBTのWritingにも対応できる確かな文法力習得を目指します。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。 2. カリキュラム上の位置づけ 将来留学や海外大学編入を考えている人の為のクラスです。受講者にはTOEFL-ITPの受験が求められます。 3. 学びの意義と目標 最終目標として難易度の高いTOEFL iBTに対応できるスピードと内容理解力アップを目指します。また総合的な英語力向上も目指します。				
評価方法 出席(20%)、授業参加(20%)、単語クイズ(30%)、定期試験(30%)の結果を総合的に評価します。				
教科書 プリントを配布する				

TOEIC A	春 週2回 2単位
担当者：中村 香代子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い読解力が要求されますが、パターンに習熟し不得意分野を訓練することで、得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねて行きます。毎回項目ごとの詳しい説明の後文法問題に取り組んだり、リスニングとリーディングの特訓も試みます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>TOEIC Testに挑戦してみたい人のための、専門科目コースです。受講者にはTOEIC-IPの受験が求められます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>TOEICテストの特徴をつかみ、点数向上を目指します。またテスト準備にとどまらず、将来役立つ実践的で総合的なリスニング・リーディング力の習得も目指します。</p>	
評価方法	
出席(20%)、授業態度(10%)、単語＋熟語クイズ(30%)、定期試験(40%)の結果を総合的に評価します。	
教科書	
塩見佳代子、Richard Silver、滝田尚広『Aim High for the TOEIC Test TOEICテスト総合実践演習』成美堂	

TOEIC B	秋 週2回 2単位
担当者：中村 香代子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い読解力が要求されますが、パターンに習熟し不得意分野を訓練することで、得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねて行きます。毎回項目ごとの詳しい説明の後文法問題に取り組んだり、リスニングとリーディングの特訓も試みます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>TOEIC Aを履修してさらに力をつけたい人、または新たにTOEICのクラスに挑戦したい人のためのコースです。受講者にはTOEIC-IPの受験が求められます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>TOEICテストの特徴をつかみ、点数向上を目指します。またテスト準備にとどまらず、将来役立つ実践的で総合的なリスニング・リーディング力の習得も目指します。</p>	
評価方法	
出席(20%)、授業態度(10%)、単語＋熟語クイズ(30%)、定期試験(40%)の結果を総合的に評価します。	
教科書	
塩見佳代子、Richard Silver、滝田尚広『Aim High for the TOEIC Test TOEICテスト総合実践演習』成美堂	